

熊本大学教育学部附属幼稚園
における組織評価
自己評価書

平成 26 年 9 月 30 日
(18) 教育学部附属幼稚園

目次

I	組織の現況及び特徴と目的.....	3
II	その他の領域に関する自己評価 （教育研究支援・幼児教育・男女共同参画）.....	5
	1. その他（教育研究支援・初等中等教育・男女共同参画）の領域の特徴と目的.....	6
	2. 優れた点及び改善を要する点の抽出.....	7
	3. 観点ごとの分析及び判定.....	8
	4. 質の向上度の分析及び判断.....	21
III	管理運営の領域に関する自己評価.....	22
	1. 管理運営の目的と特徴.....	23
	2. 優れた点及び改善を要する点の抽出.....	24
	3. 観点ごとの分析及び判定.....	24
	4. 質の向上度の分析及び判断.....	33

I 組織の現況及び特徴と目的

1 現況

- (1) 学校名：附属幼稚園
- (2) 園児数及び教員数（平成 26 年 9 月 1 日現在）
 - ：園児数 124 人
 - ：教員数 専任教員数（現員数）7 人、非常勤教員数 6 人 事務職員数 2 人 合計 15 人
 - ：学級数 年少 1 年中 2 年長 3 合計 5 学級

2 特徴

- (1) 本園の使命と特色
 - ① 教育学部の教育実習生を受け入れ、幼児教育の理論と実践について指導を行う。
 - ② 本学部が設定する目標の実現に向けて、教育内容及び運営面の充実を図る。
 - ③ 幼児教育についての研究を深め、国公立幼稚園をリードする。
 - ④ 幼児教育の推進を図り、家庭の教育支援について地域のセンター的な役割を担う。
 - ⑤ 本園の園児は、入園調査実施要項に基づいて調査を行った結果の合格者である。
 - ⑥ 本園は附属小学校と、連絡入試を実施している。
- (2) 本園の教育目標
 - ① 心身ともに健康で明るい子ども
 - ② 自分の力を出しきって遊べる子ども
 - ③ 誰とでもかかわりをもって遊べる子ども
 - ④ 考えたり工夫したりして遊べる子ども
 - ⑤ 優しく、思いやりのある子ども
- (3) 本年度の重点目標
 - ① 充足率 100% を目指し、幼稚園経営についての根本的な見直しと新たな工夫（・入園調査の方法検討 ・保護者会の在り方 ・PTA 活動の見直し等）
 - ② 新園舎の機能性を生かした保育の充実（コンセプトは、「幼児の遊びの多様性」発見！感動！表現！思考！追求！）
 - ③ 大学中期目標達成のための取り組みの充実（幼小の滑らかな接続のための先導的プログラムの実施と検証）
 - ④ 四附属学校園の連携と更なる充実

(4) 研究テーマ

「感じる 考える 伝えあう子ども」～思考力・表現力の芽生えを培う～

(5) 沿革史

大正 5 年 5 月 13 日 熊本市立壺川幼稚園創立、同時に熊本県女子師範学校代用附属幼稚園となる。

昭和 6 年 7 月 熊本市立手取幼稚園と壺川幼稚園を合併し現地に熊本市立千葉城幼稚園ができる。

昭和 15 年 4 月 熊本県に移管、熊本県女子師範学校附属幼稚園となる。附属幼稚園園則制定

昭和 17 年 4 月 県から国に移管し「熊本師範学校女子部附属幼稚園」と改称。

昭和 22 年 4 月 熊本大学熊本師範学校附属幼稚園と改称。大学の附属教育機関となる。

昭和 26 年 4 月 熊本大学教育学部附属幼稚園となる。

昭和 26 年 6 月 6・26 大水害、園舎復旧工事のため現在の城東小にて保育 園舎復旧工事

昭和 39 年 5 月 園歌制定

昭和 46 年 12 月 新園舎完成 園舎壁面に園児作品を元に岡周末教授デザインによるタイル絵完成

昭和 60 年 4 月 同窓会設立

昭和 61 年 5 月 70 周年記念式典・記念事業

平成 8 年 5 月 80 周年記念式典・記念事業
平成 18 年 5 月 90 周年記念式典・記念事業
平成 26 年 4 月 大規模園舎改修を終え、新園舎完成

3 組織の目的

(1) 以下の目的のために設定

- ① 教育学部の教育実習生を受け入れ、幼児教育の理論と実践について指導を行うため。
- ② 本学部が設定する目標の実現に向けて、教育内容及び運営面の充実を図るため。
- ③ 幼児教育についての研究を深め、国公立幼稚園をリードするため
- ④ 幼児教育の推進を図り、家庭の教育支援について地域のセンター的な役割を担うため。

Ⅱ その他の領域に関する自己評価 (教育研究支援・幼児教育・男女共同参画)

1. その他（教育研究支援・初等中等教育・男女共同参画）の領域の特徴と目的

（1）教育研究支援

大学教育学部、四附属学校園と連携して先導的な教育研究を行い、教育実習の充実とを推進するために、次のように取り組んでいる。

- ①全国附属幼稚園会、九州附属幼稚園会において、今日的な課題について協議したり共同研究を深めたりしている。
- ②熊本大学教育学部との連携において、共通のテーマで継続的・発展的に研究を行っている。
- ③附属小中特別支援学校との連携・協力・交流会を実施している。

（2）初等中等教育

幼児教育の目的を遂行し、幼児教育の充実と発展のために、次のように取り組んでいる。

- ①質の高い保育の実践研究に取り組み、毎年保育研究会を実施し、公立幼稚園をリードしている。
- ②全国附属幼稚園会幼児教育研究会や全国幼児教育研究協会が主催する研究集会を熊本にて開催し、全国大会にて研究発表や提案を行っている。
- ③平成27年度より本格実施される「子ども・子育て支援新制度」をふまえ、地域の子育てセンター的な役割を担うよう、先導的な研究を推進している。

（3）男女共同参画

男女共同参画社会の実現をめざし、次の事に取り組んでいる。

- ①職員の男女構成の平均化を図る。
- ②男女の更衣室やトイレの整備を行う。
- ③子育てにおける男女共同参画について、PTA研修会等を行い啓発を図る。

【想定する関係者とその期待】

- 全附連：文科省の講話や研修を受け最新情報を得る機会に恵まれており、平成26年度は文科省の委託を受け研究を進めている。全国の附属幼稚園が合同研究をすることで各都道府県格差なく公平に公立幼稚園のモデルとなりリードする。
- 大 学：大学職員が教材の提供や園児に直接指導をする事で、研究成果の検証となったり、学生や院生が幼児の観察を行う事で、理論の検証や実践的な指導を学ぶ機会となったりする。
- 保護者：子どもや保護者が大学職員から直接指導を受ける事ができ、学ぶ楽しさを知り見識を深めることができる。
- 地 域：地域住人が園の行事に参加したり園児が地域の行事に参加したりして交流を深める。幼稚園の施設が、地域の災害避難地域としての役割を果たすこと。
- 市教委：人事交流の成果として、市立幼稚園や小中学校とのつながりが深まり、教育の活性化が図れる。

2. 優れた点及び改善を要する点の抽出

(1) 教育研究支援

【優れた点】

- 研究を推進し、毎年公開保育研究会を開催している。
- 熊本県の国公立幼稚園会の研究部長を務め、県全体をリードしている。
- 全国幼児教育研究会の熊本県支部長を務め、平成27年度は第36回国全国幼児教育研究大会経営集会を開催予定である。

【改善を要する点】

- 幼小の先導的連携カリキュラムの作成と検証が喫緊の課題である。

(2) 幼児教育

【優れた点】

- 質の高い保育が維持されている。

【改善を要する点】

- 平成27年度からスタートする「子ども子育て支援制度」に基づき、①幼児期の学校教育として保育の質の向上や、②預かり保育を視野に入れた子育て支援、③地域の子育て支援拠点としての体制づくり等、教育の見直しと改善が求められる。

(3) 男女共同参画

【優れた点】

- 男女の年齢、人数等、バランスのよい職場の環境が整っている。

【改善を要する点】

- 教育実習生のための男女別の更衣室や控え室の確保が必須である。

3. 観点ごとの分析及び判定

分析項目 I 教育研究支援

観点1-1 教育課題

(観点に係る状況)

園内の研究を推進し、県下の幼児教育をリードしている。(資料E-1-1-1)

(中期計画番号64)

(水準)

- ・期待される水準を上回る

(判断理由)

毎年、公開保育研究会を開催し研究紀要にまとめている。

(資料E-1-1-1) 研究紀要



(出典：研究紀要)

観点1-2 大学・学部との連携

(観点に係る状況)

保育の充実を図るために、教育学部の教授を招き教員の資質向上のための研修の場を設けている。また、保護者の家庭教育力を高めるため「父母の会」(保護者向け研修会)における講話や実践演習等を行っている。(資料E-1-2-1) さらに教育実習だけではなく、学生が保育にする機会も設けている。

教育学部と附属学校園の連携協力としては、中期目標達成のための、幼小の先導的プログラムの実践

研究を行い、平成22年度よりはじまった新学習指導要領シンポジウムにおいて発表や報告を行っている。(資料E-1-2-2)

(中期計画番号64)

また、本園が毎年開催する公開保育研究会においては、大学教授による指導助言を仰いでいる。子どもの教育相談や、保護者の家庭支援については、特別支援学校や実践センターと連携をし、個別の対応を図っている。

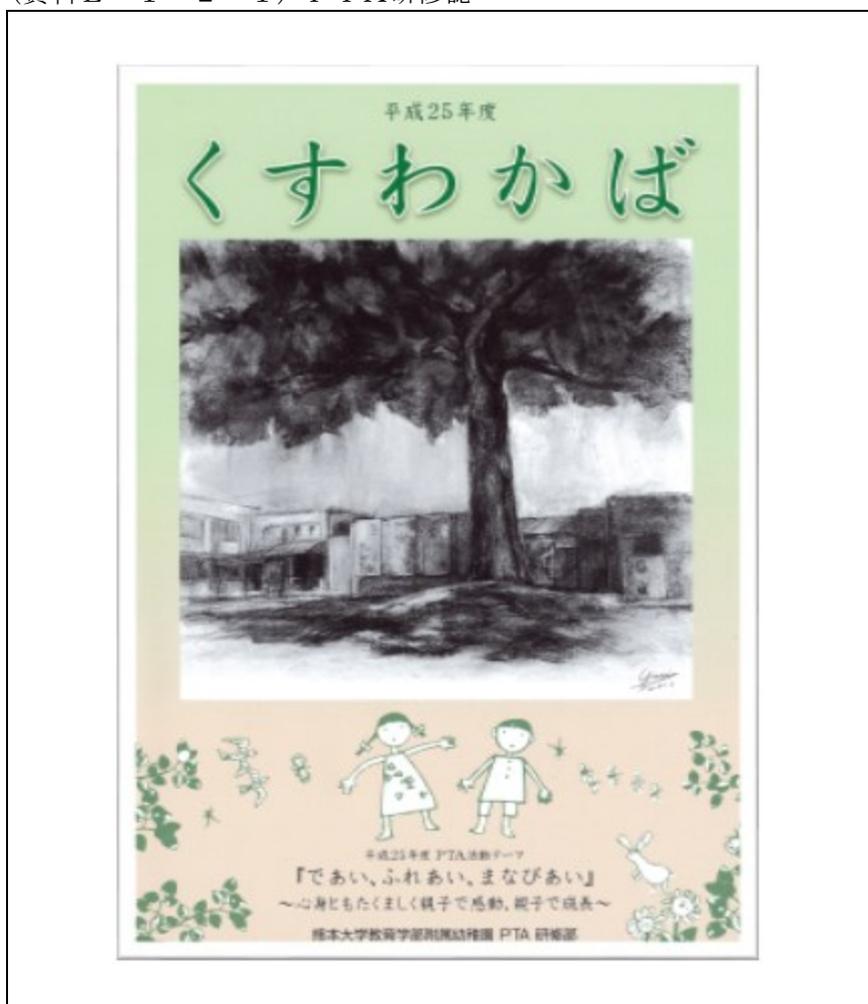
(水準)

期待される水準を上回る。

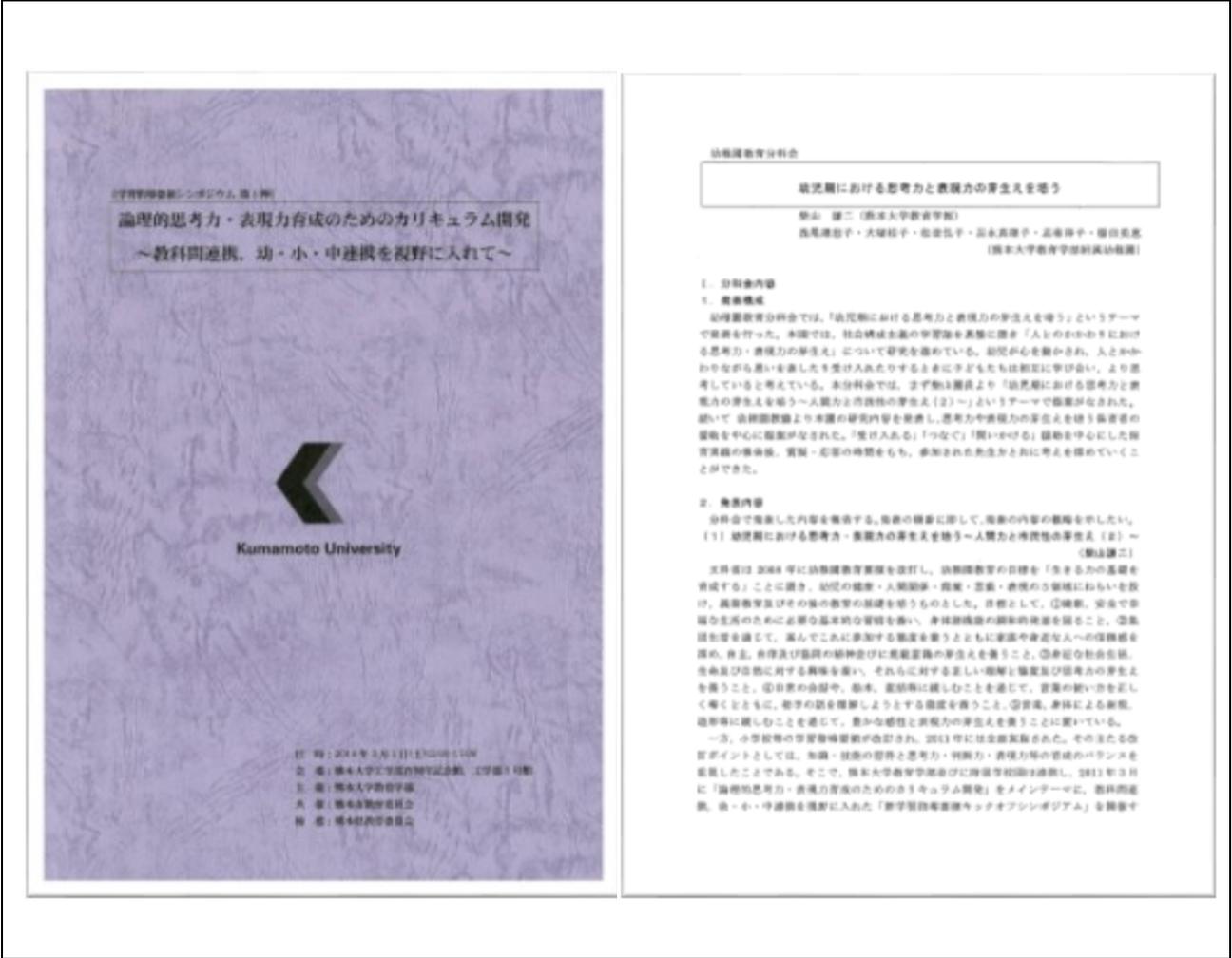
(判断理由)

大学の教授が教員や保護者に対し専門的な見地から指導助言を行っている。また学生が保育支援を継続的に行っており、木工、粘度遊び、紙工作等の表現活動においては、安全面が確保され技術指導が高まり保育の質の向上や維持が保たれている。四附属学校園と教育学部との連携においては、熊本大学教育学部が主催する「学習指導要領シンポジウム」において合同研究発表を行い5年目になる。成果物として報告書を発行した。

(資料E-1-2-1) PTA研修誌



(出典：PTA研修誌)



(出典：学習指導要領シンポジウム報告書)

観点1-3 附属学校園の役割・機能の見直しの観点から、附属学校園の目的を十分に果たしているか

(観点到る状況)

本園の使命として、教員養成のための教育実習の充実を図ること(資料E-1-3-1) 質の高い保育の維持、向上を図ること(資料E-1-3-2) 全国附属幼稚園会の研修会等で最新の情報を得て、熊本県国公立幼稚園の研究をリードし幼児教育のモデルとなること(資料E-1-3-3~E-1-3-4) 大学との連携による共同研究を進めること(中期計画番号65, 66)等が求められており、日々の実践から研修を深めたり研究会を開催したりしている。

(水準)

- ・期待される水準にある。

(判断理由)

教育実習生の受け入れが増加している。また、平成25年度より本園職員が2年次学生に対し、幼児教育指導法について4コマの講義を開始した。また、毎年公開保育研究会を開催し、保育研究の成果を発表したり先導的な講演会を開催したりして、公立幼稚園をリードする役割を果たしている。

更に第60回全国附属幼稚園会幼児教育研究大会熊本大会を開催し、全附連で初めて公立幼稚園会の会員にも案内したことで、熊本県の幼稚園研究会に大きく貢献した。

(資料E-1-3-1) 教育実習記録

平成26年度 教育学実習(第1期) 教育実習記録

熊本市立中央幼稚園 平成26年10月1日(月) 園児20名

1. 実習内容

2. 実習内容

3. 実習内容

4. 実習内容

5. 実習内容

6. 実習内容

7. 実習内容

8. 実習内容

9. 実習内容

(出典：教育実習記録)

(資料E-1-3-2) 研究紀要

研究紀要 第27集

研究主題

感じる 考える 伝え合う 子ども

～思考力・表現力の芽生えを培う～



平成26(2014)年

熊本大学教育学部附属幼稚園

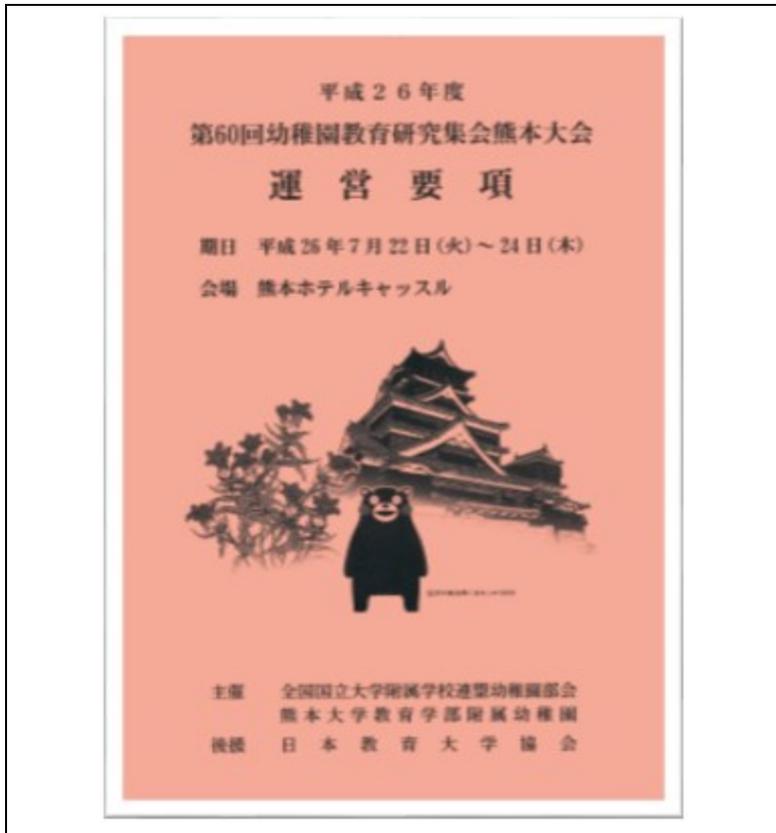
(出典：研究紀要)

(資料E-1-3-3) 国公立幼稚園会「研究のあゆみ」



(出典：国公立幼稚園会「研究のあゆみ」)

(資料E-1-3-4) 幼稚園教育研究集会熊本大会要項



(出典：幼稚園教育研究集会熊本大会要項)

分析項目Ⅱ 幼児教育

観点2-1 入園調査方法

(観点に係る状況)

平成27年度からはじまる「子ども子育て支援制度」を視野に入れ、社会や家庭のニーズにそって募集要項と調査の見直しを行った。(資料E-2-1-1～E-2-1-2)(中期計画番号64)

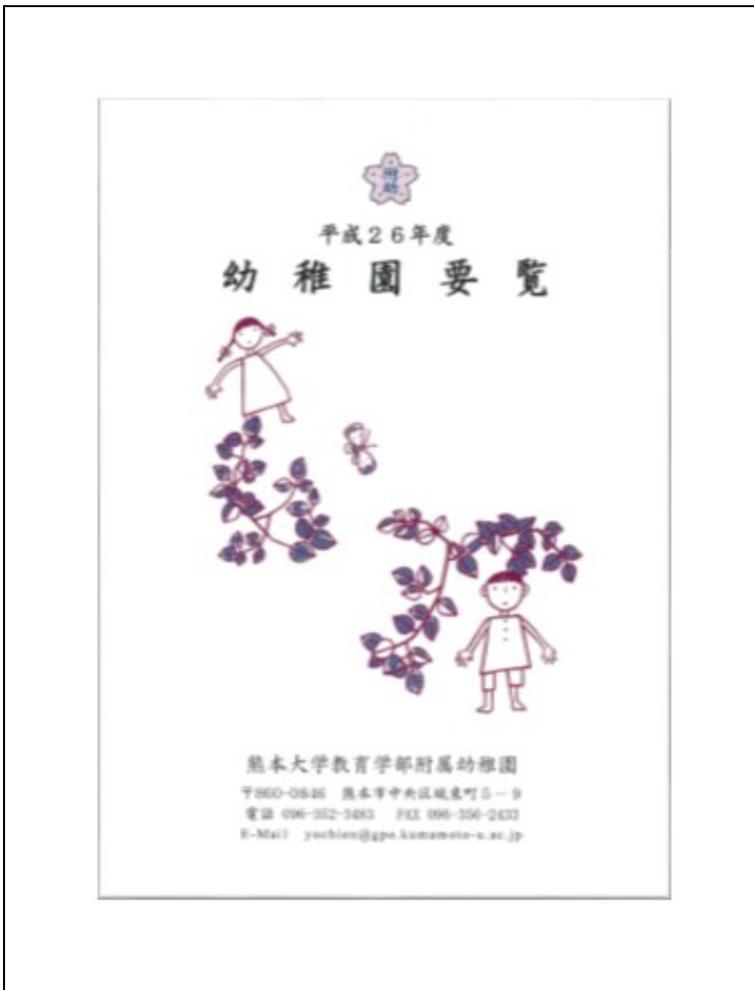
(水準)

- ・期待される水準にある。

(判断理由)

学部や四附属学校と連携して募集要項の見直しを行い、通園時の自動車の使用を認めることで熊本市外からの入園も許可した。調査の方法も一部簡略化し、子どもへの負担を軽減した。

(資料E-2-1-1) 幼稚園要領



(出典：幼稚園要領)



平成26年度
幼稚園概要



熊本大学教育学部附属幼稚園
〒860-0846 熊本市中央区城東町5-9
TEL 096-352-3483
FAX 096-356-2433
<http://www.educ.kumamoto-u.ac.jp/~kinder/>

沿革の概要

- 大正 5年 5月 熊本県立第一幼稚園が設立され、同時に熊本女子師範学校代用附属幼稚園となる
- 昭和 6年 4月 元熊本女子師範学校附属と元熊本県立第一幼稚園、2園を合併して熊本県立千歳幼稚園と称する
- 昭和 6年 7月 現在の敷地に移転造園
- 昭和15年 4月 園に併設、「熊本女子師範学校附属幼稚園」と改称
- 昭和26年 4月 「熊本大学教育学部附属幼稚園」と改称
- 昭和46年 6月 園舎修繕のため旧園にあった旧附属看護学校跡に移転
- 昭和46年12月 新築完成
- 昭和47年 1月 新築園に移転
- 昭和56年 4月 1号保育所を廃止、3号保育所開設
- 平成13年 6月 園内安全確保のための設備更新開始
- 平成18年 2月 創立75周年記念行事を開催する
- 平成25年 9月 園舎改修のために、熊本大学北キャンパスくすのき会館と附属特別支援学級をすきひの森に移転
- 平成26年 4月 新築園完成

本園の特色と使命

本園は国立大学法人である熊本大学が設置した幼稚園であり、教育課程の理念と実践に関する研究を行い、研究内容を公開することで、地域に貢献する。

- ① 熊本大学教育学部との連携をはかり、幼児教育の理論と実践に関する研究を行い、研究内容を公開することで、地域に貢献する。
- ② 教育実践のための教育実践者に対する指導を行い、成長に求められる専門性や基本的態度を養う。
- ③ 地域の幼稚園や全国の有識者や園との研究交流を通して、幼児教育の発展に寄与する。

本園の教育目標

幼児の楽しい遊び(学び)の場としての環境構築の充実を図り、保育者の適切な援助を通して、主題にわたる「生きる力」の基礎を培う。

本園で育てたい子ども像

- 心身ともに健康で明るい子ども
- 自分のお話をし知って遊ぶ子ども
- 誰とでもかかわりあちって遊ぶ子ども
- 考えたり工夫したりして遊ぶ子ども
- 優しく、思いやりのある子ども

年間行事のあらまし

1学期		2学期		3学期	
月	行事名	月	行事名	月	行事名
4	・始業式 ・交通指導 ・入園式 ・家訪問 ・野山遠足(親子)	9	・始業式 ・交通指導 ・避難訓練 ・教育実習(2年次) ・運動会	1	・始業式 ・交通指導
5	・文化継承活動 ・創立記念日 ・西園遊覧会 ・読書遠征活動 ・教職員保育研修(併修)	10	・秋分遠足(親子) ・入園説明会 ・避難訓練 ・創立記念日 ・読書遠征活動 ・読書研究発表会	2	・控室決 ・教職員保育研修(併修) ・表現活動発表会 (音楽・劇・絵)
6	・教職員研修 ・おからの誓約日 ・プール開き	11	・読書記念日 ・出版物研究発表会 ・親子遠足 ・運動会	3	・ひなまつり ・卒了証書授与式 ・卒了式
7	・ひなまつり ・熊本保護委員会 ・研修会 ・園遊会(5歳児)	12	・おもちつき ・熊本保護委員会 ・芸術発表発表会(音楽) ・お楽しみ会 ・終業式		

(月別行事) 身体測定・誕生会・参観和歌・文楽の会
美術鑑賞体験教室・バスツアー・ミーティング

園児の一日の暮らし

●午前中保育の様子(水曜日)

9:00	9:10	園児 (・園庭に遊びを促す中で遊び ・昨日からの続きの遊びをする ・保育者や友達といっしょに遊ぶ ・考えたり工夫したり、試行錯誤して遊び ・保育者とツラズのみんで活動する)	10:45	11:00
				けい 園児 離

●お昼目の様子(月・火・木・金曜日)

9:00	10:00	園児 (・園庭の遊びを続け、物を使って遊ぶ ・友達と工夫したり、試行したりして遊ぶ ・保育者と一緒に遊びを促す ・保育者とツラズのみんで活動する)	11:30	13:00
				けい 園児 離

観点2-2 在園児数の状況

(観点に係る状況)

平成14年度の161名をピークに年々園児数が減少し、平成25年度の園児数は118名、平成26年度の園児数は124であった。充足率100パーセントに向け、調査の改善や要項の見直しを進めている。(資料E-2-2-1)

(中期計画番号64)

(水準)

- ・期待される水準にある。

(判断理由)

充足率100パーセントに向け、教育学部と協議を重ね平成27年度の入園調査要項を大幅に見直し改善を図った。その結果平成27年度の入園調査説明会には10年ぶりに100人を超す110人が参加した。入園調査を終えた平成26年12月現在で、平成27年度の園児数は140人の予定であり、充足率は77.5%から87.5パーセントに伸びた。

(資料E-2-2-1) 入園調査実施報告書

平成27年度入園調査実施報告書

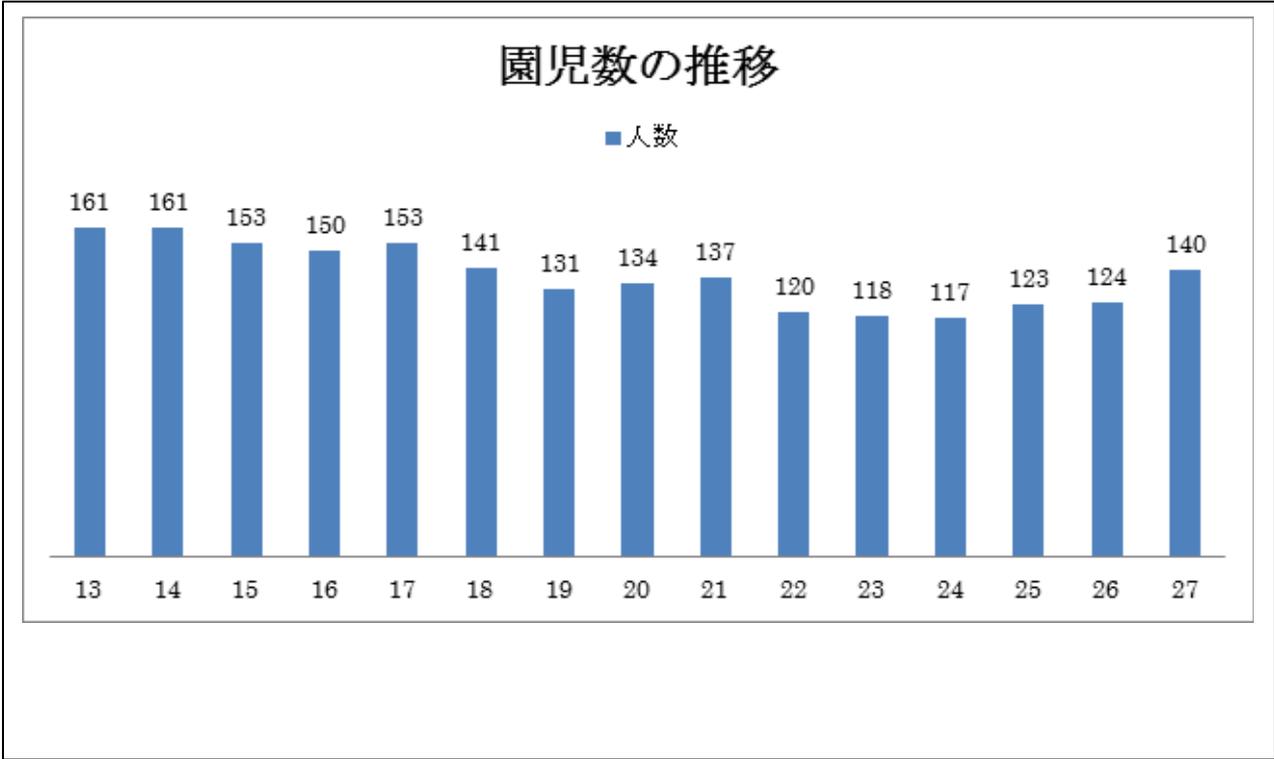
熊本大学教育学部附属幼稚園

平成27年度入園調査結果

平成26年12月25日現在

区分	3歳児			4歳児			計		
	男児	女児	計	男児	女児	計	男児	女児	計
募集人員(約)	15	15	30	15	15	30	30	30	60
応募者数	32	40	72	21	14	35	53	54	107
受験者数	21	32	53	17	10	27	38	42	80
受験辞退者	0	0	0	0	1	1	0	1	1
第一次合格者数	15	19	34	16	10	26	31	29	60
合格倍率	1.40	1.68	1.68	1.06	1.00	1.04	1.23	1.45	1.33
不合格者数	6	13	19	1	0	1	7	13	20
合格点(100点中)	67.5	72.5	70.0	62.5	65.0	63.8	65.0	68.8	69.4
二次募集受験者				3	1	4	3	1	4
二次募集合格者数				3	1	4	3	1	4
最終合格者	15	19	34	19	11	30	34	30	64

(入園調査実施報告書)



(園児数の推移)

観点2-3 教育課程の編成

(観点に係る状況)

幼稚園要領にのっとり、特色ある教育課程が工夫されている。(資料E-2-3-1) また、幼小のなめらかな接続のために、附属小学校との連携プログラムや教育課程の編成を検討している。さらに、熊本県が開催する教育課程研究協議会等に進んで参加し研究を深めている。

(中期計画番号64)

(水準)

- ・期待される水準にある。

(判断理由)

伝統行事や自然体験を重視した特色ある教育課程が工夫されている。(資料E-2-3-1) 幼小連携については、子どもの交流を年に三回、教員の情報交換を年に五回行っている。熊本県が開催する教育課程研究協議会には毎年参加し、研究発表を行っている。

(資料E-2-3-1) 教育課程



(出典：教育課程)

観点2-4 保育改善のための取組

(観点に係る状況)

保育改善のために、園内研修の充実を図り積極的に研修会に参加している。(資料E-2-4-1)
(中期計画番号64)

(水準)

- ・期待される水準にある。

(判断理由)

講師を招聘して研究会を開催したり、先進園の視察や研究会に参加したりして、園内研修の充実を図っている。

(資料2-4-1) 園内研修の記録

(出典：園内研修の記録)

観点2-5 研究成果が客観的に示され、またそれが公表されているか。

(観点に係る状況)

研究成果を保護者会にて説明し、理解や協力を得ている。また成果物を学校評議員に配布説明し、公表し、学校評価を経営に生かしている。(資料E-2-5-1)

(中期計画番号64, 66)

(水準)

- ・期待される水準を下回る。

(判断理由)

研究成果について保護者や地域、外部評価者に公開しており、その結果を経営に反映させている。

(資料E-2-5-1) 研究紀要

目 次	
はじめに	
1 研究について	
1 研究主題	1
2 研究主題について	1
(1) 社会や地域の発展から	
(2) これまでの研究から	
(3) 熊本大学教育学部・附属幼稚園との連携から	
(4) 本園への視点から	
3 研究の目的	2
4 研究の経緯	2
5 研究の過程	2
6 研究の成果	2
(1) 人との関わりにおける思考力の発達とは何だろうか	
(2) 建設的肯定や保護者の援助の受け方を調べる	
7 研究の成果と今後の課題	3-4
(1) 研究の成果	
(2) 今後の課題	

(出典：研究紀要)

(資料E-2-5-2) 実践研修資料

(資料2-5-1 研究紀要 実践研修資料)

研究紀要	第27集
研究主題	
感じる 考える 伝え合う 子ども	
～思考力・表現力の芽生えを培う～	
	
平成26(2014)年	
熊本大学教育学部附属幼稚園	

(出典：実践研修資料)

熊本大学教育学部附属幼稚園 分析項目Ⅲ

分析項目Ⅲ 目的に照らして、男女共同参画に向けた活動が適切に行われ、成果を上げていること

観点3-1 目的に照らして、目的を達成するためにふさわしい計画や具体的方針が定められているか。また、これらの目的と計画が広く公表されているか。

(観点に係る状況)

男女共同参画推進担当を中心に、組織の改善を行っている。(資料：E-3-1-1)

(中期計画番号40、73)

(水準)

・期待される水準にある。

(判断理由)

平成25年度は男女比が1:13であったが平成26年度より4:10となり職場における男性職員の増加が実現した。

(資料E-3-1-1) 担任・保育補助等一覧

7 平成26年度 担任・保育補助等一覧			
学級担任			保育補助
5歳	きく組	女性	男性 女性 ・保育補助 ・環境整備
	ふじ組	女性	
4歳	さくら組	女性	男性 ・個別指導 ・牛乳給食
	もも組	女性	
3歳	ばら組	女性	女性 ・保育記録
養護教諭		女性	・養護・環境衛生
給食飼育		女性	・給食・飼育
事務		女性 男性	・事務全般

(出典：教育要覧より職員一覧表)

観点3-2 計画に基づいた活動が適切に実施されているか

(観点に係る状況)

職員の男女構成比適正化を図り、更衣室やトイレの整備を行っている。

(中期計画番号40、73)

(水準)

・期待される水準にある。

(判断理由)

計画に基づき少しずつ改善されている。

観点3-3 男女共同参画基本方針等の趣旨に照らし、男女共同参画の取組を実施しているか。

(観点に係る状況)

男女共同参画教育方針に基づき、職場での取り組み、家庭支援、地域啓発を行っている。

(中期計画番号40、73)

(水準)

・期待される水準を下回る。

(判断理由)

男女に関わらず個人の個性や能力に適した業務の配置を行い、組織の活性化を図っている。また、「ママパパはっとタイム」等、保護者向け子育て支援研修を行っている。

4. 質の向上度の分析及び判断

(1) 分析項目Ⅰ 教育研究支援

質を維持している

(記述及び理由)

国公立幼稚園会、幼児教育研究協議会、幼稚園 PTA 連合会等県内の幼稚園組織と、全国附属学校連絡協議会や九州附属学校連合会の組織を有効に活用し、保育実践が深まるよう研修体制が整備されている。

(2) 分析項目Ⅱ 幼児教育

改善、向上している

(記述及び理由)

教育基本法、並びに学校教育法に位置づけられた学校教育としての幼稚園教育について、その目的や意義について、保護者、教育実習生、大学生に対して何度も講話を行うために、教員一人一人の自覚が高い。

教職員の異動があっても、ベテラン教諭と経験の浅い教諭をペアにして組織的に運営を行うために担任による保育の差が生じにくく、どのクラスも同様に保育が維持され教育目標が達成される。

(3) 分析項目Ⅲ 目的に照らして男女共同参画に向けた活動が適切に行われ、成果を上げていること

質を維持している

(記述及び理由)

男女の特性を生かし、効率的に運営ができるよう園務分掌を工夫している。また、PTAによる「おやじの会」や「女性の会」等、行事の運営等では協力的である。

Ⅲ 管理運営の領域に関する自己評価

1. 管理運営の目的と特徴

熊本大学教育学部附属学校幼稚園は、大正5年に熊本県女子師範学校代用附属幼稚園として創立され、昭和26年に熊本大学教育学部附属幼稚園に制定された。園地は1525坪。現園舎は平成25年8月に大規模改修され、平成26年4月に完成した。平成27年から本格実施される子ども・子育て支援制度に対応できるよう、相談室や絵本の部屋を設置し、保育室を多目的に利用できるよう工夫されている。管理運営の領域は、上記敷地と園舎の施設・設備、ならびに職員15名、園児124名である。教職員の勤務時間は午前8時30分から午後5時15分までで、保育時間は午前9時10分から午後1時30分までである。教育課程は、幼稚園要領に則り、環境、言語、表現、健康、人間関係の五領域を通じた環境の構成と保育者の援助を工夫して編制されている。特に自然環境に恵まれた広い園庭を利用し、伝統的な行事や自然体験、食育を重視し特色ある編制を工夫している。

以上の施設・設備、園児・教職員、教育内容について、法令や教育学規則の基づき、教育目標が達成されているかどうか、管理の目的である。

特徴として以下のとおりである。

- ①研究園としての体制や組織が整っている。
- ②教員養成の教育学部附属園であるために、学生の実習環境が整っている。
- ③大学学部並びに四附属学校園連携が強化されており、PTAの親睦交流も盛んである。
- ④市街地にあつて、自然に恵まれた園舎環境である。
- ⑤不審者進入や自然災害に対応できるよう、警備体制を整え備蓄品の確保や備蓄倉庫を備えている。

[想定する関係者とその期待]

大 学：教員養成機関として施設や設備を整備し、教育実習生の指導の充実を図る。

保護者：施設や設備が充実し、安全・安心な園舎にて質の高い教育を願う。

地 域：災害用施設として、地域住人の避難地として利用できる。

市教委：人事交流をとおして、教員の資質向上と市立幼稚園の活性化を図る。

2. 優れた点及び改善を要する点の抽出

【優れた点】

保育に係る園舎内外の施設・設備は新園舎の完成により充実し、より質の高い保育が提供できている。また、警備体制を強化しさらに危機管理が充実した。特に、近隣のビルに囲まれたプールは遮光と防犯を兼ねたネットを設置したことで安全性が増した。また、正門、駐車場門に防犯カメラを設置し、24時間の監視が可能となった。平成25年度は外部からの不審電話が二回あり、休日明けは駐車場門周辺が飲食物のゴミや汚物で荒らされている事が多々あったが、平成26年度はそのような被害は皆無であった。

学校評議員会における評価の中で、園児数確保のための改善点を例示していただき、早速、学部と協議を重ねて募集要項を見直した。車の通園を許可し通園可能な範囲を熊本市外にまで広げたこと、入園説明会の回数を増やし願書受付期間を長くしたこと、未就園児の体験登園を増やした事、などにより、平成27年度の園児募集説明会には10年ぶりに100人を超す110人が参加した。入園調査を終えた平成26年12月現在で、平成27年度の園児数は140人の予定であり、充足率は77.5%から87.5パーセントに伸びた。

【改善を要する点】

現在、研究活動の成果物は公開保育研究会の研究紀要のみである。実践集や研究冊子を発行したり、成果をホームページ上にて公開したりして、社会全体に情報を提供しその責任を果たす等、地域の子育て支援をリードする取り組みが必要である。

3. 観点ごとの分析及び判定

分析項目 I : 管理運営体制及び事務組織が適切に整備され機能していること

観点1-1 管理運営のための組織及び事務組織が、適切な規模と機能を持っているか。また、危機管理等に係る体制が整備されているか。

(観点到る状況)

法令や教育学部規則に基づき、教育学部・附属学校連絡協議会の協議をとおして、適切に管理運営を行っている。運営に関する園務分掌等は年間に二度見直しを図り、修正をしながら機能強化を図っている。また、危機管理については教育学部やPTAと連携して未然防止や早期対応ができるよう、日頃から見回り、点検、研修、訓練を行っている。(資料Z-1-1-1)(資料Z-1-1-2)

(中期計画番号64)

(水準)

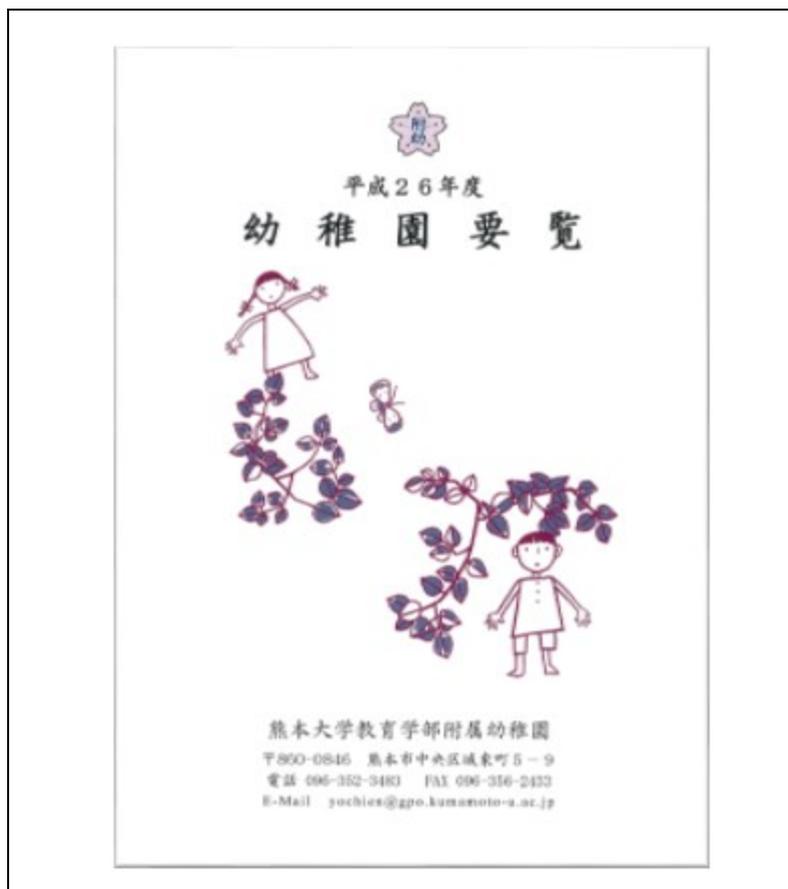
- ・期待される水準を上回る

(判断理由)

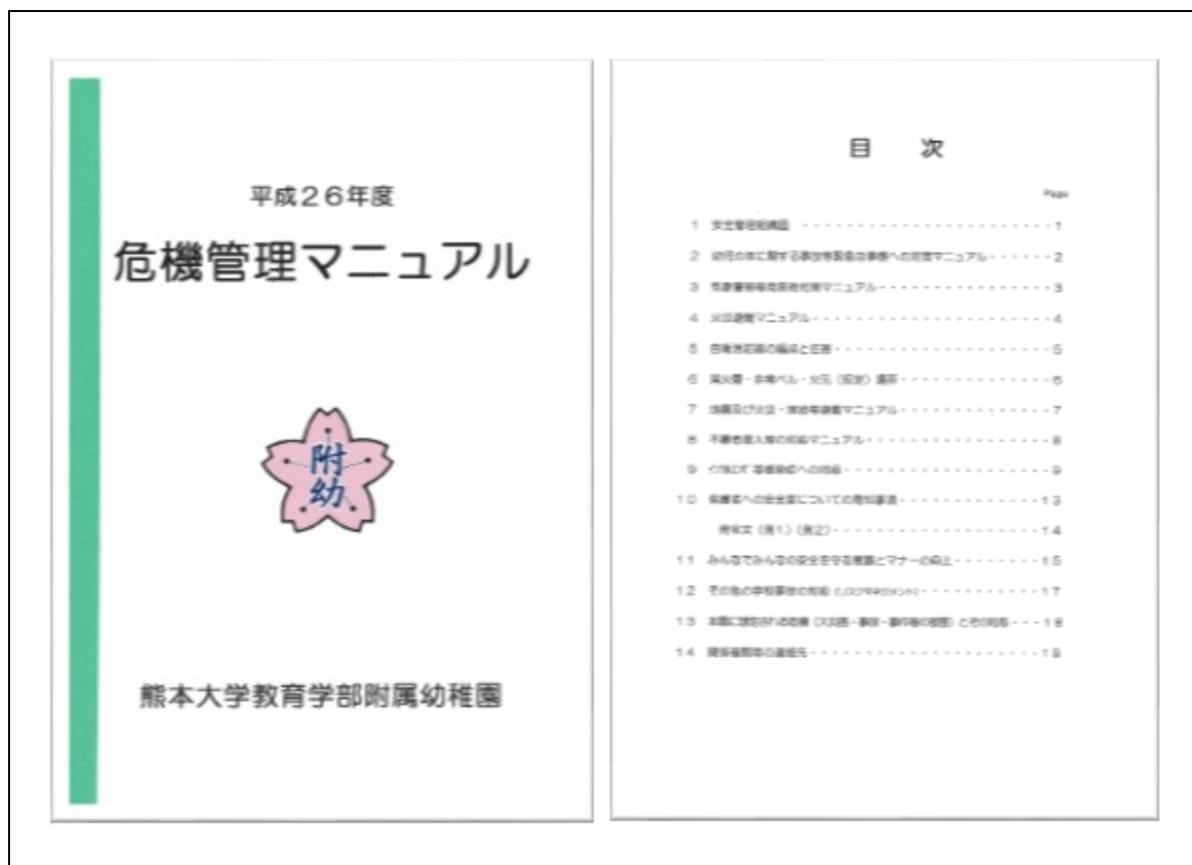
関係諸機関、並びに地域と連携した防災訓練を年に三回行い、PTA主催の防災研修やコミュニティ活動も行っている。近隣のビルとも連携し「災害避難時における緊急避難地」の提携を結んだ。年長児は消防団員の指導の下、幼年消防団の活動も行われており、子どもたちの意識は高まっている。日常的な遊びの中で子どもたちは保育者とともに遊具の点検や危険箇所がないか等、自発的なパトロールも行われている。また職員の意識も高まり、平成26年度より保護者・教職員向け「安全便り」も配布している。(再掲資料E-2-1-1) 幼稚園要覧

平成25年度8月から緊急時一斉メール配信を試行し、平成26年度から正式に一斉メールを導入した。電話による伝達とともに活用している。

危機管理マニュアルの項目は、1安全管理組織 2園児に係る緊急対策 3気象警報対策 4火災避難 5自衛消防隊 6消化器・非常ベル設置場所 7地震火災津波避難 8不審者侵入対応 9インフルエンザ 10保護者への周知事項 11地域ぐるみ学校安全体制づくり 12未然防止リスクマネジメント 13その他 関係諸機関連絡先 (資料Z-1-1-1) 危機管理マニュアル



(出典：幼稚園要覧)



(出典：危機管理マニュアル)

観点1-2 構成員（教職員及び幼児）、その他学外関係者の管理運営に関する意見やニーズが把握され、適切な形で管理運営に反映されているか。

（観点に係る状況）

構成員の意見を集約するために学期に一度の教職員育成面談、月に一度の希望面談を行っている。また行事毎にアンケートを実施し、意見やニーズに優先順位をつけ、できることから管理運営に反映している。（資料Z-1-2-1）

（中期計画番号64）

（水準）

- ・期待される水準にある。

（判断理由）

育成面談や自己評価シートをもとに教職員の意見やニーズを集約して、全体の改善点としてまとめ、それらに優先順位をつけて適切な形で管理運営に反映されている。

（資料Z-1-2-1）学校評価



（出典：中期計画番号64）

観点1-3 管理運営のための組織及び事務組織が十分に任務を果たすことができるよう、研修等、管理運営に関わる職員の資質向上のための取組が組織的に行われているか。

(観点に係る状況)

円滑な運営ができるよう計画的に園内研修が進められている。

(中期計画番号64)

(水準)

- ・期待される水準にある。

(判断理由)

園内計画に基づき研修は行われている。平成25年度の職員の研修総数は33件であったが平成26年度は全職員に園外研修を義務づけ総数83件となった。学内開催の情報セキュリティ研修やハラスメント研修にも参加し、周知を図った。

(資料Z-1-3-1) 園内研修計画

研修項目	研修内容	実施時期
新入職員研修	園内研修、園外研修 研修内容は、園内研修、園外研修 研修内容は、園内研修、園外研修	平成26年度 4月～5月
職員研修	園内研修、園外研修 研修内容は、園内研修、園外研修 研修内容は、園内研修、園外研修	平成26年度 6月～7月
園外研修	園外研修 研修内容は、園外研修	平成26年度 8月～9月
情報セキュリティ研修	情報セキュリティ研修 研修内容は、情報セキュリティ研修	平成26年度 10月～11月
ハラスメント研修	ハラスメント研修 研修内容は、ハラスメント研修	平成26年度 12月～1月

(出典：園内研修計画)

分析項目Ⅱ 活動の総合的な状況に関する自己点検・評価が実施されているとともに、継続的に改善するための体制が整備され、機能していること

観点2-1 活動の総合的な状況について、根拠となる資料やデータ等に基づいて、自己点検・評価が行われているか。

(観点到に係る状況)

毎学期毎に行う反省と志向、年度末に行う自己評価において、その根拠となる具体的な資料やデータ等の提示は徹底していない。(資料Z-2-1-1)

(中期計画番号64)

(水準)

- ・期待される水準を下回る。

(判断理由)

自己評価において根拠となる資料やデータは示されていない。

(資料Z-2-1-1) 自己評価表

平成26年度 自己評価シート (他職)					
				1次評価者：川野 智子 ㊞ 2次評価者：田中 均 ㊞	
所 属		熊本大学教育学部附属幼稚園		氏 名	
通し番号		性 別	男・女	年 齢	年 月
1 自己目標の設定・達成度評価					
保 育 研 究	担 当 職 務 の 目 標 と 評 価				
	現状	年齢は、平成26年3月31日現在で記入すること。			
	目標				
	具体的な 手立て				
	自己 評価	段階評価	記述による自己評価		園長等評価
生 活 指 導	現状				
	目標				
	具体的な 手立て				
	自己 評価	段階評価	記述による自己評価		園長等評価
	園 務 分 掌	現状			
目標					
具体的な 手立て					
自己 評価		段階評価	記述による自己評価		園長等評価
2 副園長全体所見					
平成 〇 年 月 日 副園長氏名 川野 智子 ㊞					

(出典：自己評価表)

観点 2-2 活動の状況について、外部者（当該大学の教職員以外の者）による評価が行われているか。

(観点に係る状況)

学校評価を行い、学校評議員会を年 2 回開催し、指導助言を受けて教育活動の充実を図っている。

(中期計画番号 6 4)

(水準)

- ・期待される水準にある

(判断理由)

学校評議員会において活動状況等の状況報告等を行い、適切な指導・助言を受け、教育活動の改善に活かしているため。

観点 2-3 評価結果がフィードバックされ、改善のための取組が行われているか。

(観点に係る状況)

学校評議員会での評価を受け、評価結果をいち早く反映させ改善を行っている。

(中期計画番号 6 6)

(水準)

- ・期待される水準にある

(判断理由)

評価後、早い時期に改善が図られている。

分析項目Ⅲ 教育研究活動等についての情報が、適切に公表されることにより、説明責任が果されていること。＜教育情報の公表＞

観点3-1 目的が適切に公表されるとともに、構成員に周知されているか。

(観点に係る状況)

教育内容について、保護者向けに毎月園便りを発行している。研究活動については、毎年研究紀要を発行し配布するとともに、保護者研修の一環として説明を行っている。

(中期計画番号64)

(水準)

・期待される水準にある。

(判断理由)

保護者のニーズに応え、園の情報を提供している。

観点3-2 入学者受入方針、教育課程の編成・実施方針及び学位授与方針が適切に公表・周知されているか。

(観点に係る状況)

平成27年度園児募集要項を大幅に見直し、受け入れの枠を広げた。(再掲資料E-2-1-2)

園内行事や教育課程について分かりやすく概要にまとめ配布している。(資料Z-3-2-1)

(中期計画番号64)

(水準)

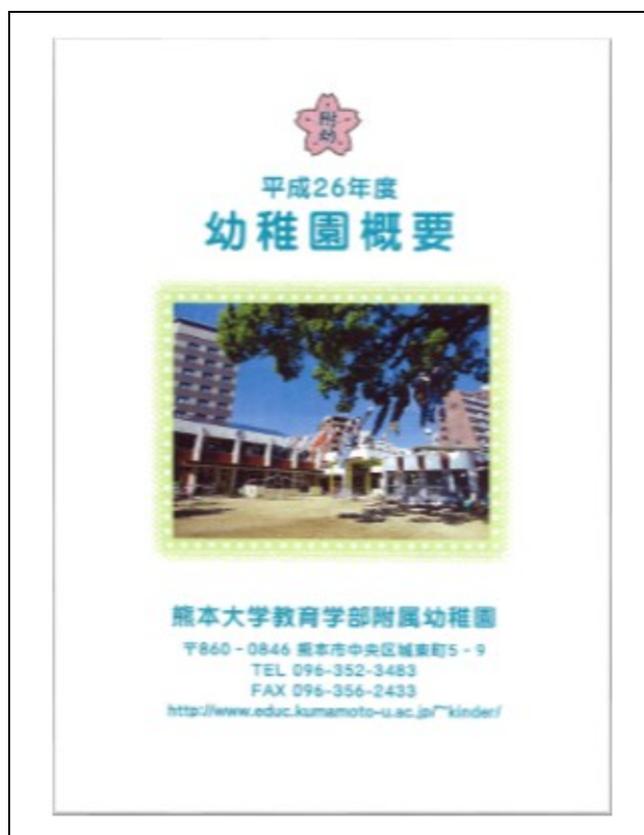
・期待される水準にある。

(判断理由)

平成27年度の園児募集要項の見直しについては、概要パンフレットを配布しホームページ上での周知を行

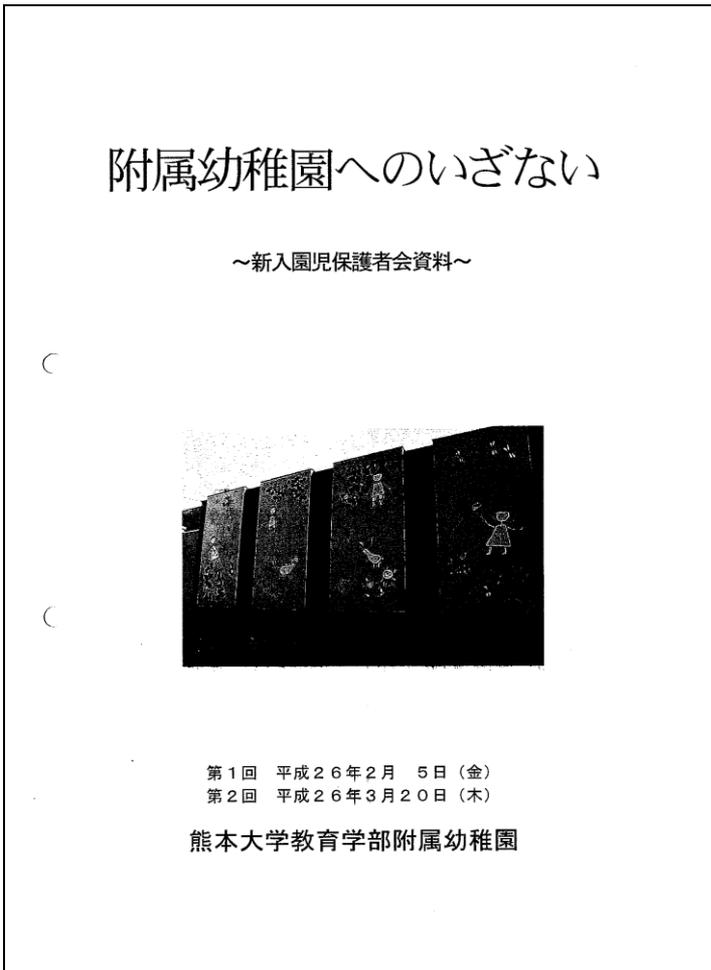
った。

(再掲資料E-2-1-2) 幼稚園概要



(出典：幼稚園概要)

(資料Z-3-2-1) 入園のいざない



(出典：入園のいざない)

観点3-3 教育研究活動等についての情報(学校教育法施行規則第172条に規定される事項を含む。)が公表されているか。

(観点に係る状況)

保護者に対して、研究活動報告を兼ねて研修会を開催するが、適切な情報公開は実施できていない。
(中期計画番号64, 66)

(水準)

・期待される水準を下回る

(判断理由)

ホームページ等の充実が望まれる。

分析項目Ⅳ 教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備等が整備され、有効に活用されていること。〈施設・設備〉

観点4-1 教育研究活動を展開する上で必要な施設・設備が整備され、有効に活用されているか。また、施設・設備における耐震化、バリアフリー化、安全・防犯面について、それぞれ配慮がなされているか。

(観点に係る状況)

平成25年度の園舎改修に伴い、大幅な施設設備の改善、園舎内のバリアフリー化を図った。

(中期計画番号64)

(水準)

・期待される水準を上回る。

(判断理由)

改修に伴い園舎内の整備が充実した。

観点4-2 教育研究活動を展開する上で必要なICT環境が整備され、有効に活用されているか。

(観点に係る状況)

平成25年度の園舎改修に伴い、ICT環境が整備された。

(中期計画番号65)

(水準)

・期待される水準を下回る。

(判断理由)

ICT環境は整備されたが、有効に活用されているとはいえず研修が必要である。

観点4-3 図書館が整備され、図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されており、有効に活用されているか。

(観点に係る状況)

平成25年度の園舎改修に伴い、幼児の絵本部屋を新たに設置し、大変充実している。職員の図書の整備が遅れており、対応を考えている。

(中期計画番号64)

(水準)

・期待される水準にある。

(判断理由)

園児の絵本の部屋と図書保管庫が新設され機能している。

4. 質の向上度の分析及び判断

(1) 分析項目Ⅰ 管理運営体制及び事務組織が適切に整備され、機能していること
質を維持している

(記述及び理由)

○毎月開催される教育学部と附属学校園の運営委員会ならびに運営協議会において、問題点を把握し、連携・協力しながら適切な運営体制が整備されている。

(2) 分析項目Ⅱ 活動の総合的な状況に関する自己点検・評価が実施されているとともに、継続的に改善するための体制が整備され、機能していること
質を維持している

(記述及び理由)

○自己評価、学校評価をもとに、年度末の学校評議員会において次年度の改善について協議している。今後は学期毎の評価検証活動を取り入れ、年度内に改善が図られるよう、マネジメントサイクルを強化していく。

(3) 分析項目Ⅲ 教育研究活動等についての情報が、適切に公表されることにより、説明責任が果たされていること。＜教育情報の公表＞
質を維持しているとはいえない

(記述及び理由)

○現在は教育活動の報告書や研究の成果物等の配布が主であるが、今後は社会全体に対して早く的確に情報提供ができるよう、ホームページ等の有効活用を図っていく。

(4) 分析項目Ⅳ 教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備等が整備され、有効に活用されていること。＜施設・設備＞
改善、向上している

(記述及び理由)

○平成26年度の園舎改修に伴い、施設・設備の整備や充実が図られた。今後はその有効活用と更なる教育の質の向上をめざし、研修の充実を図る。